

(1) 単元名：人間を見つめて読む 教材 「川とノリオ」

(2) 本時の目標：すぐれた表現を味わい、登場人物の心情を読み深める。

名護市立屋我地小学校。9月24日のJ先生（リフレクションシートNo.89）に続いての授業公開である。6年生は男子4名、女子1名の5人のクラスである。去年まで複式の学級であったが今年から単式の学級となっている。本日は貴重な1名の女の子が休みであったが、ベテランのR先生が男子4名で国語の「学び合い」に挑戦である。

日頃から気心の知れた仲間たちである。1名が4月からの転入生というが、全く違和感がない。写真は授業前になにやら漢字ドリルをやっているところだが、すでに「訊き合う」「支え合う」様子がかががえた。なんて言えばいいのだろう、「のほほん…」とゆったりした時間が流れる。教室に柔らかな空気を感じる。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。（時間は時刻）

【深い学びは整然とした教室でしか生まれない】写真①、子ども達の作品や、掲示物が大事にされている。



写真①



写真②

これまで何度も言い続けてきたが、深くしっとりした「学び」はきれいな教室環境の中でしか生まれない。教室環境は子ども達の関係や、心の状態を反映しているといっても過言ではない。この教室は「きれい」である。写真②、教室前面の黒板上に掲示されていた。共同体は共通理解と共通実践がカギである。

13:45 「マッキーノ」？ よくわからないが既習漢字の練習である。子ども達が実に楽しそうに取り組んでいる。「やった〜」とか小さく歓喜している。よく本時の課題やテーマに入る前にドリル的練習問題等が課されるが「やりすぎに注意である。」子ども達は「今日は何をする。」に期待する。既習事項をどれだけ覚えているか試されるより今日を精いっぱい頑張りたいのである。日常の授業でも7分以内には、本時の課題やテーマにつなげるよう授業デザインを心がけたい。



13:50 本時のテーマが下ろされる。しっとりした視線が教師に向けられる。「聴き合う」。



【拡大教科書】



授業者は、子ども達と、読みを深め考えを共有するために、本単元で大型教科書を使っている。国頭村ではほぼ定番になっているがここ屋我地小でもついに教科書を拡大コピーした教具が使われた。授業者は本時の読み取りの段落の「読み」に入る前に、これまでの話の流れを確認した。実に使いやすい教具である。さらにこれまでの子ども達の「学び」や思考の跡がうかがえる。（ポートフォリオとしての評価資料にもなるのではないだろうか。）

13:56 「読む」・・・自分のペースでじっくり読ませたい。



写真③

写真③、教師の見守りである。子ども達と一定の距離間を保ちながら様子を見とる。読みのスピードや音量は子ども達に任せればよい。大切なことは「このお話を描きなら読んでいるか？」である。自分なりのペースを大切にしたい。写真④、利樹さんはペンでなぞりながら一句、一文を、ほんとに大切に読んでいるのが分かる。「読み」を描いている。



写真④



3人はまだじっくり読んでいる。1人はすでに読み終えて手持無沙汰である。速く読み終えた浩太さんの読みと、そうでない3人の読みの違いはなんだろう。これが学びの研究です。「テキストとの対話がなされたのは、どちらだろうか？」を考えなくてはならない。写真⑤、和佐さんの読みのリズムが変わったのに気が付いただろうか。じっくり読み入る。

14:10～【共有する】



上の写真、身を乗り出して「聴く」である。書き込みの後、全員が自分の気づきや疑問を共有した。

利樹：「キセルをかんだ！は、くやしいから」→浩太へつながる

浩太：「戦争はもう嫌だ」授業者が書き込む。

さらに和佐が語る右下写真。決して言い合っていない、仲間の考えに共感したり、疑問を仲間と共有したりする「聴き合う」である。

思いを語り、つながる「学び合い」である。「なんでそう思ったの？」「僕はこう思うけど。みんなはどう？」仲間との対話から、自己への問いの対話が生まれる。しっとりした時間が流れる。



14:15 P94～「じいちゃんも、ノリオもだまっている。」



じいちゃんもノリオもだまっているのは→浩太と利樹につながる。

浩太：「何も言わないのは、悔しいからだ」

利樹：「悔しくて何も言えない」

飛龍：「ノリオはまだ子どもだから、お父さんお母さんが戦争で死んだと言ってもまだ分からないから。だまっている。」

すばらしい仲間たちだ。仲間の発言に自分の言葉を重ねて、さらに聴き合い、自分の考えを確かなものにし、深めていく。決して仲間の発言を否定しない。授業者もできるだけ子ども達に「つなぐ」に徹している。

14:20 授業者は挿絵に目を向けさせる。「ヤギはノリオにとって・・・」テーマを下す。



以下子どもたちの声である。

- ・ヤギもノリオも一人である。
- ・ヤギと遊んでさみしさをまぎらわしている。
- ・ヤギはノリオにとってお母さんでもある。

授業者は後半に二つのテーマを下ろした。

- ① 「ヤギとノリオの関係」
- ② 「青いガラスを、投げてやった。」投げてやったの文章からノリオの心情にせまりたいのだろう。教師の語りが多くなる（右写真）。



R先生、授業公開ありがとうございました。ついでに慰労会まで参加させていただき、いろんな話がうかがえて私にも多くの学びがありました。「学びの共同体」の研究は、教師の授業の指導方法の研究ではなく、子ども達の「学び」の研究です。「これまで」を断ち切ることは簡単ではありませんが、屋我地小学校でもいよいよ「学び合う学び」の研究の始まりですね。今日は、貴重な1名の女の子が欠席でした、ぜひもう一度5名での授業の様子を拝見させていただきたくお願いします。

校長先生、教頭先生、J先生もとっても熱心であることに「安心」します。屋我地小の全職員が共通理解・共通実践をもとに同僚性を高め、すべての子ども達の「学び」の保証に向けられることに期待します。

本日は、素敵な授業ありがとうございました。

国頭学びの会ゆい